

平成28年度第7回まちづくり懇談会

1. 日 時：平成29年3月29日（水） 午前10時00分～
2. 場 所：市役所9階 第2応接室
3. 次 第
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 出席者自己紹介
 - (3) 市長挨拶
 - (4) 懇談
4. テーマ：「船橋市障害福祉センター設立について」

【議題】

- ・ 公民館のバリアフリー化
 - ・ 障害者対応の図書館の設置
 - ・ 障害者がスポーツできる施設の設置
-

●団体

おはようございます。会長の好村です。

今日は市長との懇談という機会をつくっていただきまして、本当にありがとうございます。

私たち船橋市障害福祉団体連絡協議会は、福祉センターの設立という遠大な計画を持っていますが、なかなか、実現するのは簡単ではないということは承知しています。しかし、将来的な施策としてぜひ船橋市も取り上げていただきたいという思いを持っています。こういうことは、長期計画で反映されることだと思いますので、今日は、関連した事項について3点、お話をさせていただきますので、ご討議いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

●団体

では自己紹介から。私は身体障害者福祉会の御郷昌亮と申します。いつもお世話になっています。よろしく申し上げます。

精神障害家族の会オアシスの犬石と申します。よろしくお願いいたします。

船橋市自閉症協会の高橋です。よろしくお願いいたします。

○市長

こちらこそ、いつもお世話になりまして、ありがとうございます。好村会長をはじめ、皆さんには、もう何度もお会いしておりますけれども、今日、こうした形で、改めて最近の皆さんの考えなどをお伺いできればと思っています。

今年、市制80周年ということで、記念誌には好村会長にも登場いただきました。本市は、おかげさまで元気なまちになりましたけれども、いろいろな時代があって、特に障害者施策については、社会の意識も変わってくる中で、自治体としてどういうアプローチでやっていくべきなのかというのを、常に考えていく必要があります。すぐにできないことも多いですけれども、一つ一つ意見を伺うことが、また次につながる大きな力になるので、今日は、よろしくお願いいたします。

●団体

まず、障害福祉センターの設立についてです。理由としては、障害者の自立した生活を推進するため、障害者が利用しやすい福祉センターが必要ではないかと考えています。

現在の船橋市において、障害者福祉関連施設が点在し、障害者が利用するにあたり非常に不便である。それぞれの施設の連携活動も、距離があることから困難な状況であります。

しかし、設立ということは、非常に長期計画で検討してもらわなければいけない事項でありますから、その前段として、公民館のバリアフリー化、障害者対応の図書室の設置、障害者がスポーツできる施設が必要と考えています。

船橋市の障害者福祉関連重要施設ということで、大きく私に取り上げたのは、施設としては7つです。

船橋市には、福祉ビルがありますけど、この中に入っているのは、「社会福祉協議会」、「福祉サービス公社」、「生きがい福祉事業団」。結構なのですが福祉ビルと言いながら、この3つの団体しか入っていないということが、私が問題にしている1つです。

団体として、「ふらっと船橋」は相談支援事業をやっております。それから、「成年後見センター」は本町のレックスマンションの602号ですが、この602号というのが非常にまたわかりにくいところなんですよね。これも、利用者にとっては、602号を探すだけで大変、と、こういう状況です。

「障害福祉センター」は、薬円台にありますけど、これも設立してから随分たっていますが、うまく活用されているかどうかというところが気になっています。

「船橋地域活動支援センター」が保健福祉センターの3階にあります。「オアシス」は平成27年10月にできたんですけど、うまくタイミングを合わせれば、保健福祉センターの中に、できたんじゃないかと思いました。「オアシス」は、非常に恵まれた環境になっていますけど、そのほかの福祉団体が、一堂に会せるようなところがあれば、本当にいいなと思っています。

それから、障害者虐待防止センターに、「はーぷ」があります。これは、「ふらっと船橋」と一緒になって活動しています。それから、障害者自立生活センターに「WAVE」という福祉作業所があり、運営を行っています。

こういうふうに、主要関連施設がばらばらにあって、利用者にとって、非常に利用しづらいという面がありますので、集約の場としてセンターができればありがたいと考えています。

他自治体の状況ですが、埼玉県は、「障害者交流センター」というのがあります。これも、我々が実際に見学に行きましたけど、これは県レベルでやっている事業ですが、こういう立派な施設がある。ところが千葉県にはまだないという状況でございます。

千葉市には、「千葉市ハーモニープラザ」というのがございます。ここでは、障害者福祉センター・障害者相談センター・千葉市ことぶき大学・千葉市社会福祉研修センター・ボランティアセンター・男女共同参画など、いろいろな福祉関係の施設が総合的に集まっていて、障害者が利用しやすいという施設をつくっております。

松戸市では「松戸市健康福祉会館」というのがありまして、これは「ふれあい22」と言いますが、保健医療、福祉サービスの具体的な展開を図るために設置され、皆さんが活用しやすい福祉会館です。

船橋市における総合福祉センターの設立については、長期計画で必要になるものですから、短期的に必要と思われる公民館のバリアフリー化、車椅子で対応できる実習室の設置、点字ブロックや手すりの設置、ポイントランプの設置、聴覚障害者用にポイントランプがあればいいんじゃないかなと提案しております。全ての公民館をバリアフリー化するのは非常に難しいと思いますので、1カ所でもそういう施設ができればいいのではないかと考えております。

次に障害者対応の図書室ですけど、障害者に関する書籍を1カ所に集めるとか、障害者の専門的な書籍、点字書籍の常置を行い、障害者が図書室に行ったら利用しやすいというようにしていただきたいという提案でございます。

それから障害者のスポーツのできる施設についてです。現在、運動公園にプールを建設中ですが、あの中にもぜひ車いすでも入れるようなプールを取り入れていただきたいなと思っています。私は、船橋のアリーナに毎日のように水泳に行っていますが、なかなか障害者が入りづらい感じで、また車椅子で対応できるようなプールじゃないこともあり障害者が利用することは、なかなか難しい状況にあります。

参考までに埼玉のプールでは、障害者優先というふうな作り方をしています。障害者がプールの利用ができて、一般の人でも利用できますが、これだったら障害者が自由に楽しめると思いました。

どういうふうになれば障害者が、車椅子の人、知的障害を持っている子ども、楽しく利用できるようにするにはどうしたらいいかということ工夫をやっていただければありがたいと思います。

●団体

この間、東京都王子の障害者総合スポーツセンターの見学に行きましたら、陸上競技場で一生懸命走っている四、五十人の障害者がいて、東京都はすごい施設があるねとびっくりしました。片足で一生懸命走っている姿を見ると、やっぱり感動します。埼玉県障害者スポーツセンターにも行ったのですが、船橋もそういう何か発信基地があって、見るチャンスがあると、市民の人たちも、障害者に対して深い理解を示してくれるのではないかと思いますね。

●団体

オアシス家族会では、船橋アリーナで卓球をやっていますが、やはり精神の場合は、その日の気分とかで、当事者が行けないということもあり、行き着くまでが、なかなか難しいということがあります。

例えば「ひまわり園」という社会へ出るための訓練施設のようなものがあるんですけど、薬の管理ができなくては大めとか、洗濯できなくては大めとか、料理もつくらなきゃ大めとか、ハードルが高過ぎて、なかなか入れないです。

そこからデイケアに通ったり、作業所に通ったりする施設なんですけど、そこをもう少し、生活訓練の場、社会へ出るための、もう一つレベルを下げた場にしていただけたらと思います。まず、こういうのが欲しいなという気持ちで、それをクリアしましたら、福祉センターとかを利用できるようになると思うのです。

●団体

千葉県自閉症協会の理事会に参加したときに他市の話も聞くことがあるんですけど、松戸には「ふれあい22」があることで、講演会をやるとか、打ち合わせをするとかに会場としてそこが利用できるのが、すごくうらやましいなと思っています。船橋だと、どうしても公民館をとってとか、そういうのでしか利用できないので。

○市長

「ふれあい22」はいつでも使えるわけではないんですよね。

●団体

もちろんそうですけど、やっぱり障害者団体として使えるのはいいですね。

○市長

私が市長になって、すごくいい施設があるって紹介されて、見させてもらったときも言ったんですけど、市が独自でやるにはボリュームが大きすぎるのと、ほかにいろいろなことをやっていかなきゃいけない中では、大きなものは厳しいということです。やり方は2つあり、改修をするか建て替えるか。これを整理していくことになると思うので、ちょっと時間をいただきたいです。

ただ、公民館では、例えばエレベーターをつけるとか、トイレは当たり前の話ですけど、引き戸にしたりとか、新しくなっているところは極力そういう配

慮をしています。調理室も、全てではないですけど、高さ調節が出来て車椅子で使えるようなものは、もうずっとやってきているんですね。

だから、障害者の方だけではなく、高齢者も同じく、バリアフリーとユニバーサルデザインというか、どんな人にも使いやすいような対応がとれるというところに、配慮しながらやっていくのが大事だと思います。

図書館について、ちょっとお伺いしたいのですが、これはどういうイメージですか。どんな人でも使いやすい施設が一番いいと思います。だから、例えば障害者の人の書籍が集まっているスペースが欲しいのか、それとも障害者の人たちが行って、優先的に使える部屋が欲しいのかなのですが。

●団体

障害者にとって、障害者関連の書籍を探すというのはなかなか大変なものです。1カ所に障害者関連のものをできるだけまとめていただければありがたいです。

○市長

そういう意味ですね。この4月から、図書館の体制を変えるんですけど。案内する人は、これまでより確実に充実させます。例えば、車椅子の人が行って、上のほうの本とか探せないじゃないですか。そんな時は職員がついていってお手伝いするような体制はとっているんで、声をかけてもらえれば、お手伝いさせてもらうことが可能ですと会員の皆様にお伝えください。

あと、スポーツ施設についてですが、平成29年度に入ったら障害者スポーツ振興のために、障害者スポーツ振興協議会みたいなものの、準備会を立ち上げます。今年から生涯学習部で準備をしていて、今、どんな人に入ってもらってやるほうがいいのかというところです。当然、競技スポーツをやっている人も、学校体育の人も、あと障害者関係の人も含めてです。

●団体

そうですね。分かりました。

こういったものは県でやるべき事と、市でやるべき事があると思うんですね。そういうことで、どちらがどのようにするかという問題があるんですけどね。

○市長

一番いいのは県にも市にも団体から、声を出してもらいたいんです。

本市としても、市内団体からこういう意見が上がって、この部分は市でやることができるけど、ここは県がやってくださいっていう要望が、一番わかりやすいんですよね。市が動いても、県に、いやそんな声全然来てませんよと言われちゃうとそこで終わっちゃうんですよ。ですので、例えば県の協議会みたいなのがあったら、そこに意見を上げてもらって、「ぜひ県に要望しましょう」というような、草の根活動を、やってもらうほうがいいんですよね。

市のシステムを変えれば対応できることもありますので、改めてプールとか総合体育館とか、あとは、新年度からの動きの中でちょっとやっていこうかなと思います。

●団体

いろいろ長期計画を市としてもやっておられると思うんですけど、こういうセンターのことについてもそうなんですけど、障害者関連施設とかいろいろな委員の中にぜひ障害者の人を入れてもらいたいんですよね。

○市長

そうですね。実際にやっている人の意見を聞かないとわからないところがあるから、それは十分留意させてもらいます。

●団体

お願いします。

最近生活していて、やっぱりバリアフリー化が随分進みましたね。私たち障害者にとってはね、非常にありがたいですよ。若者が電車乗って、バス乗ってというのは、バリアフリー化が進んでいて、外へ出やすくなったことですから。ただ、ちょっと船橋は道路事情が。

○市長

そうですね。これは、一気ににはできないので、地道にやり続けています。例えば、歩道の段差解消も、以前から取り組んでいます。ただ、船橋の動脈たる国道や県道は、千葉県が主として管理しています。

普通の人だって歩くのが危ない道路では、雨の日に子供たちが傘を差すと、トラックに当たりそうになってしまうわけです。その話、県にも要望を出していますが、なかなか難しいところです。

●団体

成田街道が一番きついですね、今。

○市長

市としては、出来るところを地味にやっていくのと、あと、国・県道については、これからも要望を出していきます。

県議会でも取り上げてもらって、交差点の改良などの話も進めてもらっていますが、先ほどの協議会以外にも、県議会議員などにも直接言ってもらえると、また、違うと思います。

●団体

近くの県道ですが、道路に面した土地にアパートが建ちました。道路を拡幅するために二、三十年ぐらいの長期計画でやっていると思うんですが、私から見ると、新しい建物を建てるんだったら、もっと歩道を広げて、安心して通学とか通勤ができるようにならないかなと思って。

○市長

その辺は、確認してみます。

さきほどのプールの話ですが、残念ながら夏見のプールは車椅子対応にはしていないんです。使用率が高いアリーナには、何かできないか検討をしてもらいます。

●団体

プール関連ですが、新習志野に県のプールがあり、そこは65歳以上は無料なんです。船橋は有料なんですよね。月に3200円ですが。

○市長

やはり、維持管理がありますからね。

●団体

私が疑問に思っているのは、スポーツを振興するために、県と同じような考え方をとってもらえないのかなと。

○市長

難しいところですね。アンデルセン公園では65歳以上無料ですが逆に、有料にしろという人もいます。金を取って、子供たちの無料の範囲を広げるべきだと。

●団体

いろいろな考え方がありますね。

○市長

今も、結構手をかけて直しながらやっていますので、その辺はご理解いただければと思います。

●団体

アリーナについてですが、精神障害者としてもリハビリの一環でトレーニングジムに通って、トレーナーの方にいろいろ取り組んでもらっています。私たちはコンサートをやったり、市民の方に精神障害者を知っていただく啓蒙をやっているんですが、理解がないために、乱暴な言い方に傷ついたりという、そういうこともあるものですから。障害者も利用しますのでトレーナーの方も勉強してもらえればいいなと思います。

○市長

それは必ず伝えます。

話は戻りますが、今、発達相談センターなどが点在していますが、これはまとめたほうがいいんですか。例えば、保健福祉センターとか、市は意図的にずらしてやっている部分もあるんです。要するに1カ所にまとめてしまうと、近い人は近いんですけど、そうじゃない人は結構通うのが大変になる気がするんですが、ワンストップで1カ所で全部できたほうがいいんですか。

●団体

もうちょっと大きなスペースでもって、もうちょっと真ん中あたりまで持ってきてもらえればまとめて欲しいですね。例えば医療センターあたりだったら、巡回して市内を回れるんじゃないかなと思っています。

●団体

点在すると私たちが望む、充実した施設をたくさんというのは、難しいんじゃないかと思っています。

○市長

なるほど。やはり、核になるものが1個必要だということですかね。

●団体

そうですね。

昔、運動公園のドアに段差があったんですよ。私たちはあのころは若かったから、車椅子で乗り越えてきたんだけど、出来ない人もいたので申し入れたら、すぐ、そのところを平面にしてくれて楽になりました。今は運動公園の陸上競技場に入るのが楽です。

そんなこともあり、我々はまちに出ること、参加することが非常に重要だなと感じましたね。健常者があそこを走るのには、別に何でもないでしょうけども障害、ハンデを背負っていると、そういう機会がないですから。今、車椅子で400メートルのトラックを走っているんですけども、非常にいい、爽快な気分になりますものね。

○市長

すごいですね。

●団体

そういう企画を、年に一回、千葉YMCAのチャリティーランでやってくださっているの。私はいろいろな若者に声をかけて参加するようにいったところ、幾つかの団体が出るようになったんですよ。

●団体

うちの息子は、チャリティーランに参加しています。

○市長

20年ぐらいになりますよね。

●団体

いま、担当課と話をしようとしているところですが、東京都、横浜等でヘルプマークという制度を使ってやっているらしいんですよ。東京オリンピックにむけて船橋でも考えて欲しいのでこれから検討していただければ。

○市長

わかりました。担当と話をします。

自閉症をお持ちの家族会みたいなものが、あるんですか。

●団体

はい。私たちの会は、そういう会です。

○市長

普段、どのような活動をされているんですか。

●団体

公民館を借りて、音楽サークルみたいなのをやったりとか、あとは、勉強会みたいなのを開いたりとか、そういう活動をしています。

○市長

そうですか。

施設整備については、会長からも言っていただきましたけど、ちょっと時間がかかると思います。ただ、最初に言ったように、現状のものを改善していくことで使いやすくなる部分というのは、まだまだ沢山あると思うし、なかなか気がつかない部分も多いので、それを言っていただいて、お応えするようになると思います。

●団体

アリーナに関連しまして、全ての施設のマンパワーの充実をお願いしたいなと思います。具体的にはスタッフの方に病気を理解していただき、それにあった対応をしていただくということ。ただ、100人いれば全部症状が違う、親ですら把握できない部分もありますので、それを理解するというのは、ほんとうに大変な作業だということはわかっているんですが、少しでもそれを理解いただければなど。

○市長

職員も、私も含めて、やっぱりわからない部分がありますね。

●団体

そうですね。なので、私どもも、いろいろな講演会とかをやるときに、市役所とか保健所にパンフレットをお配りするんですけども、時間の都合がつかましたら、職員の方にも1人でもいいので来てもらいたい。平日でも、もしお時間の都合がつくようでしたら職員の方、あんまり来てくださらないので来ていただければというふうに、切に希望します。

○市長

私たちも、接遇向上を図っていますが、本当の意味での接遇、ただ、言葉が丁寧とかそういう問題じゃなくて、相手を理解するのって、意識の中にあるかないかで全然違うんですね。

わかりました。その辺は、研修担当も含めて、入り口を探さないといけないですね。

●団体

そうですね、それ1つでぐんと変わってくるんで。

○市長

意識のある職員は、結構いますし、何か庁内報で紹介をしていくとかね。

●団体

この間も、親亡き後の後見人のことで、すごく詳しくセミナーを行ったんですが、当事者の家族の方しかいらっしやらなかった。そういうものに、施設の方とか、スタッフ側の方に来ていただければいいかなと。

○市長

私も以前、障害とは違うんですけど、引きこもりの若者をサポートすることをやっていたときに、立ち直った子が皆に話をしてくれました。そこに来ていたのは、みんな年をとったお父さん、お母さんなんですよ。自分が現役で仕事をやっているころはいいんだけど、退職するころになってもまだ引きこもっているとすると、やっぱり心配で。

そのときにやりとりを聞いていてすごい勉強になったのは、ああいうのに行っているだけで、十分理解できるわけでもないんだけど、こんな状況の人たちがこれだけいるんだということだけでも理解できますよね。

こうやって、なかなか頻繁にはできないんですけど、年1回程度は、最近どうですかという話を聞かせてもらうのが一番いいような気がします。話してもらうことで、次につながっていくので。

分野別に、分科会みたいなのができていくので、そこにはぜひ入っていただいて、障害や身体など様々なケースがあるので、その辺を、集約していくという形は、ぜひとりたいと思っています。

私はこうやって気楽に話していますが、担当職員は、制度とか仕組みとか、結構、いろいろな枠の中で頑張らなければいけないので、その辺だけご理解をいただいて、今後ともよろしくお願いします。

●団体

市長は連絡協議会の大会とか福祉会の大会に出席しご挨拶いただいて、市民との交流を大事にさせていただき、本当に温かみを感じています。

○市長

ありがとうございます。

話さないとわからないこと、行ってみないとわからないことが多いので、会合とかに出させてもらおうと、団体によって結構雰囲気が違うこととか、一つ一つ、私も勉強させてもらっているんで、これからも、そういった形でやっていきたいです。

●団体

今日はどうもありがとうございました。